

# 稲作情報

Vol.5 平成28年7月12日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



## 幼穂形成期を迎えつつあります

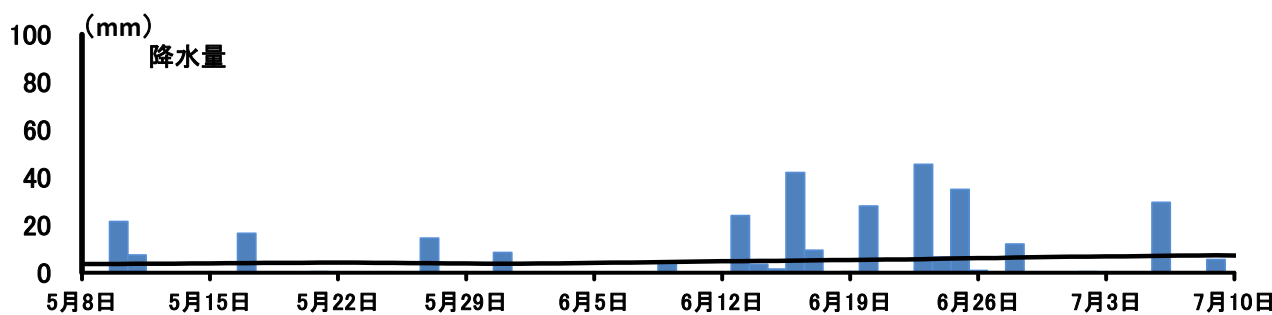
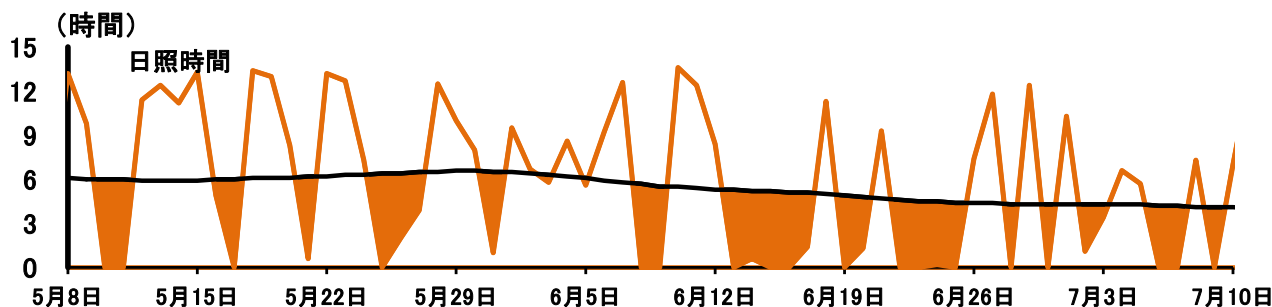
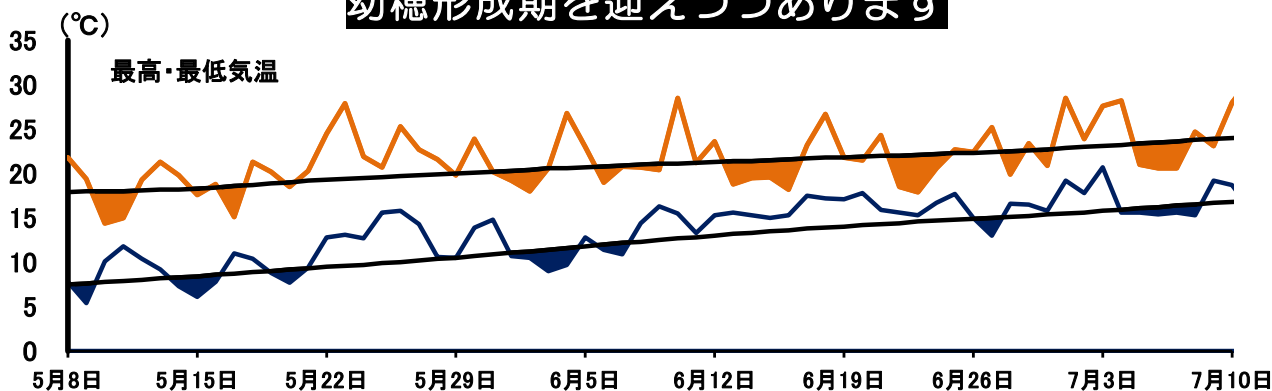


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5/8～7/10）

## 気象経過 7月1半旬は多照少雨，2半旬は少照傾向

7月1半旬は、高温・多照・少雨傾向で推移しました。

7月2半旬は、気温と降水量は平年並、日照時間は少なめでした。

表1 半旬別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	比	H28	平年	比
6月3半旬	17.5	16.8	0.6	20.5	21.4	-0.8	14.9	13.2	1.7	21.4	26.4	81%	29.0	24.4	119%
6月4半旬	19.3	17.4	1.88	22.3	21.8	0.5	17.0	13.9	3.1	14.0	24.9	56%	80.0	26.3	304%
6月5半旬	18.4	17.9	0.5	20.8	22.1	-1.3	16.2	14.6	1.7	9.5	22.7	42%	87.0	28.7	303%
6月6半旬	18.9	18.4	0.5	22.4	22.5	-0.1	15.4	15.1	0.3	31.6	21.7	146%	13.0	31.8	41%
7月1半旬	21.0	19.0	2.0	25.8	23.1	2.7	17.8	15.8	2.0	27.1	21.5	126%	0.5	34.1	1%
7月2半旬	19.7	19.6	0.0	23.4	23.8	-0.4	16.8	16.5	0.3	14.3	20.7	69%	35.0	36.0	97%

## 生育状況 幼穂形成期を迎えつつあります

### 1) 生育調査ほ

- ・梅雨入りしてからは梅雨らしい天候が多く、生育のスピードは鈍化し、ほぼ平年並の生育進展となっています。
- ・気仙沼市の生育調査ほ（ひとめぼれ）は、平年と比較して、草丈・葉色は平年並、茎数は少なく、葉数はやや多くなっています。
- ・南三陸町の生育調査ほ（ササニシキ）は、草丈・茎数・葉数・葉色ともにほぼ平年並となっています。
- ・7月11日現在の幼穂長は、気仙沼市（ひとめぼれ）で1.5mm、南三陸町（ササニシキ）で0.6mmとなっており、**幼穂形成期は気仙沼市（ひとめぼれ）で7月11日、南三陸町（ササニシキ）で7月13日頃になると推測されます。**
- ・幼穂長から出穂期を予測しますと、今後の天候が平年並に推移した場合、出穂期は気仙沼市（ひとめぼれ）で8月6日、南三陸町（ササニシキ）で8月8日頃になります。
- ※今後の天候によって、生育ステージが予測値から変動することもあります。
- ・7月7日現在の宮城県米づくり本部情報では、**三陸沿岸地域の幼穂形成期は7月7～17日、出穂期は8月6～14日と予測されています。**

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		7月1日調査				7月11日調査				幼穂形成 始期
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	
生育調査ほ	平成28年	44.8	395	10.1	42.6	54.3	422	11.0	36.4	7月11日
	前年	45.9	575	10	38.0	55.8	601	10.7	39.6	7月10日
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月15日)	平年	44.8	630	9.4	40.1	57.2	632	10.4	37.8	7月11日
	前年比(差)	98%	69%	0.1	112%	97%	70%	0.3	92	1日遅い
	平年比(差)	100%	63%	0.7	106%	95%	67%	0.6	96	平年並
生育調査ほ	平成28年	44.8	600	9.7	39.5	57.3	570	10.7	37.0	-
	前年	48.7	712	10.3	35.4	57.5	663	11.1	33.6	7月8日
南三陸町入谷 ササニシキ (5月13日)	平年	44.2	608	9.4	39.0	54.8	582	10.7	35.0	7月10日
	前年比(差)	92%	84%	-0.6	112%	100%	86%	-0.4	110	-
	平年比(差)	101%	99%	0.3	101%	105%	98%	0.0	106	-

注: 平年値は過去5カ年(平23～27年)の平均値

### 2) 復旧農地

#### 「土壌改良プログラム」とは？

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラム。

表3 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		7月1日調査			7月11日調査		
			草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)
土壌改良プログラム実証ほ	実証区 (毎年3t)	平成28年	43.3	443	38.1	48.7	414	33.5
		前年	36.9	445	31.2	43.6	443	27.1
		前年比(差)	117%	99%	122%	112%	94%	124%
南三陸町歌津 (5月13日)	参考区 (H26・27 0.6t, H28 3t)	平成28年	42.5	473	37.7	47.6	391	31.6
		前年	36.2	437	33	42.5	439	29.5
		前年比(差)	117%	108%	114%	112%	89%	107%

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」42kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。苗はJA南三陸歌津育苗センターから手配。

※参考区は、過去2年間たい肥0.6t散布し、今年はい肥3t散布した。

土壌改良プログラム実証ほは、両区とも草丈は前年より長く、茎数は前年よりやや少なく、葉色は前年より濃くなっています。幼穂長は0.8mmで、7月13日前後に幼穂形成期を迎えると推測されます。実証区は、参考区よりも生育量がや

や多い傾向です。

今年作付け再開したほ場整備地区では、一部を除き、移植のほ場も鉄コーティング直播のほ場も順調に生育しており、一般のほ場と遜色ない生育となっています。移植では幼穂形成期を迎えつつあります。

### 3) 鉄コーティング直播

直播展示ほは、草丈・茎数・葉色ともに昨年並で、葉数は昨年より0.5枚前後少なくなっています。現在のところ、移植と遜色ない草姿となっています。幼穂はまだ確認されていません。

表4 直播展示ほの生育調査結果

調査地点名 (は種日)		7月1日調査				7月11日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
直播展示ほ	平成28年	34.2	443	8.2	43.2	42.6	650	9.4	39.7
気仙沼市本吉町	前年	32.8	441	8.8	38.9	41.6	631	9.8	38.3
(5月18日)	前年比(差)	104%	101%	-0.6	111%	102%	103%	-0.4	104%

※鉄コーティング直播栽培4年目。品種は「ひとめぼれ」。

## 今後の栽培管理

### ◎出穂期までの水管理

**!!!減数分裂期に低温となる見込み。低温時には深水管理を!!!**

7月11日に、仙台管区気象台より低温に関する異常天候早期警戒情報が発表されました。管内の移植水稻が減数分裂期を迎える7月19日頃からの約1週間、気温が平年よりかなり低くなる見込みです。

幼穂形成期（7月中旬頃）から出穂開花期にかけて低温に遭遇すると、一穂粒数の減少や障害不稔、玄米の千粒重の低下などにより、収量が低下します。

週間天気予報に十分気をつけ、日平均気温が20℃以下、又は最低気温が17℃以下になる場合には深水管理（水深をできる限り高く保つ）を行い、幼穂を低温から守りましょう。

- 中干しは幼穂形成期までに終了して下さい。中干し終了後は急激に湛水状態とすると根腐れを起こすこともあるので、最初は走り水として、その後に間断かん水を行ってください。
- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけて、稲は水を多く必要とします。このころに水分が不足すると、幼穂の発育や開花・受精が妨げられ、減収する恐れがあります。出穂期までは間断かんがいを励行し、水を切らさないように管理して下さい。
- 根腐れが発生しやすいほ場や、倒伏の危険のあるほ場では、飽水管理（田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）を行うと、根の健全化と茎の充実に効果があります。

### ◎追肥の目安

- 今後幼穂形成期を迎え、追肥を行う時期になりますが、追肥は生育や葉色等を確認して行ってください。追肥の判断に迷ったときは、普及センターまでご相談ください。
- 追肥後は、一時的に稲体窒素濃度が高くなるため、いもち病抵抗力が弱まるので、必ずいもち病の防除を実施しましょう。
- 近年、白未熟粒の発生による品質低下が問題になっています。白未熟粒は稲の栄養状態が悪く、穂揃期の葉色が薄い場合に多発することが報告されています。適切な追肥を行い、品質向上を図りましょう。

## ◎病害虫防除 《いもち病》

病害虫防除所の発生予報（7月7日発行）によると、葉いもちの発生時期は平年並の7月第4半旬（7月16～20日）で、発生量も平年並と予察されています。

### 1. 予防防除（発生前）

#### 1) ほ場の見回り

止葉や次葉に付いた葉いもちの病斑は穂いもちへ移行するので、常にほ場の見回りを心がけ、いもち病斑の早期発見に努めてください。

#### 2) 予防薬剤による防除

##### ア) 粒剤による防除

コラトップ粒剤等、予防粒剤による穂いもち防除は出穂20～10日前に行いましょう。水面施用剤の散布時は、水深を3cm以上にし、散布後少なくとも3～4日は湛水状態を保ってください。

##### イ) 茎葉散布剤による防除

茎葉散布剤で予防防除を行う場合は、出穂直前、穂揃期およびその7～10日後の3回実施してください。

### 2. 治療防除（発生後）

○いもち病が認められた場合は、すでに周辺の株に感染している可能性があります。予防粒剤施用の有無に関わらず、周辺のは場も含めて直ちに薬剤散布を実施してください。

○発生の多いときは、散布間隔を詰めたり、雨の合間でも散布を行うなどして病気の進展を食い止めましょう。その際に、前回とは違う系統の薬剤を使用すると効果的です。



「  
葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」

## 《斑点米カメムシ類》

### 水田周辺で斑点米カメムシ類が多発！

7月4～11日に管内の水田周辺でカメムシ類すくい取り調査を行ったところ、昨年並にカメムシ類の発生が確認されました（データ集計中、次回掲載予定）。

斑点米カメムシ類の防除には、雑草等の管理と薬剤による防除があり、両方の防除方法を実施することが重要です。

### 1. 耕種的防除

#### 1) 水田内雑草

水田内のイヌホタルイやヒエ、シズイ、コウキヤガラ等の雑草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長するので確実に除草しましょう。

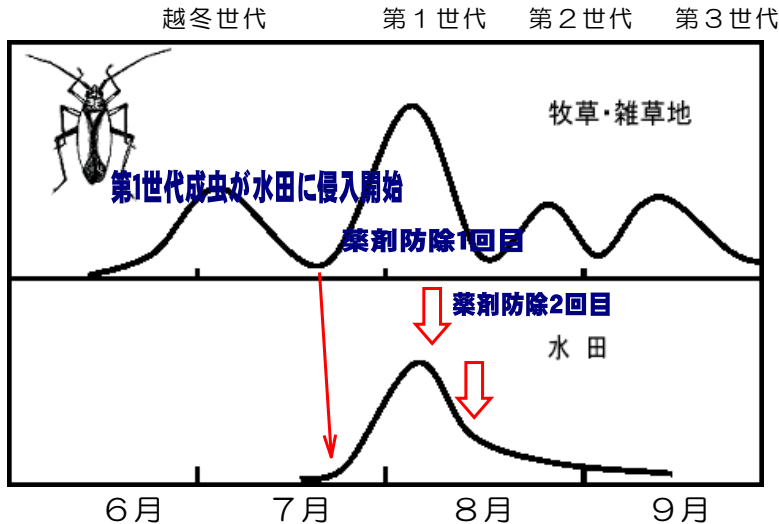
#### 2) 水田周辺の雑草

雑草地、農道、畦畔等の雑草を刈り取って、カメムシ類のエサとなる穂をつけさせないようにしましょう。水稲の出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田に追い込むことから、遅くとも出穂10日前（7月26日頃）までに実

施してください。

## 2. 薬剤防除

- 薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回実施**が基本です。茎葉散布剤を使用する場合は、畦畔も含め防除してください。
  - 2回目に使う薬剤は、1回目と異なる分類の薬剤を使うと効果的です。
  - イヌホタルイが発生した水田で除草が間に合わない場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ、斑点米の発生を軽減できます。
- \* 草刈りや薬剤防除は、地域で一斉に行うと効果が上がります。



アカスジカスミカメは、越冬世代が産卵した、第1世代が水田に侵入します。

7月上旬は、越冬世代が減り、第1世代幼虫が増える時期です。

図2 水田および周辺牧草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発消長

### ※斑点米カメムシ類防除適期の「穂揃期」っていつ頃？



- 左の写真のように穂の先端が止葉葉鞘から出た状態の茎が、水田全体の5～10%程度の時期を「出穂始」  
40～50%程度の時期を「出穂期」  
80～90%程度の時期を「穂揃期」といいます。

- 「出穂期」から「穂揃期」までは天候にもよりますが、2～3日かかります。
- 一般的には、穂が完全に伸びきった時期を「穂揃期」と呼んでいることが多いようですが、正しい時期を理解して適期防除を心がけてください。